



命の奇跡

師走はあわただしく過ぎ去ります。

住宅事情があまり良くないころ家で暖かいのは、いろいろやストーブの周りだけで自然に家族が集まる所でした。

今、子どもは自分の部屋から出なくても済みます。親子で食卓を囲む機会は減り、一人で食事をする「個食」が増えています。

みんなで鍋を囲むのは、団らんを楽しむいい機会です。湯気の向こうに見える大切な人の笑顔は、師走を乗り切る心の栄養にもなります。鍋には、家族の笑顔が似合います。

12月8日は太平洋戦争に入した日です。この時期になると、いろいろに掛けた鍋を囲みながらあの悲惨な戦争の体験を語ってくれた祖父のことを思い出します。戦争を直接経験した人たちも、時とともに少なくなっています。今やあの戦争は、体験を「語

る」から歴史を「学ぶ」へと変わりつつあります。

今年を振り返る時、命を粗末にする事件が続発しました。子どもが「いじめ」などで自殺し、さらに親が子を殺し、子が親を殺すという信じがたい事件も起こりました。

約38億年前、地球上に最初の生物が誕生しました。すべての生物は遺伝子によって受け継がれてきました。その遺伝子を変化させることで数千万種類とも言われる生物が生まれ、そして人類が誕生しました。

私の遺伝子は、約38億年間、一度も途切れることなく、受け継がれてきたことになりました。この間に一度でも事故が起これば、私は存在しなかったことになりました。

約38億年という気の遠くなるような時間をかけて、ヒトは選り抜かれてこの世に誕生したことになります。そういう

う意味では、命は自分だけのものではないように思います。

世の中には生きる自信を失いかけている人もいます。人の身体には、宇宙の進化の歴史が凝縮されています。この世に生まれてきたこと自体、途方もない奇跡的な出来事です。生きているだけでも有り難く素晴らしいことです。

私たちは自分の力で生きていくように思いがちですが、自分の力だけで生きている人など地球上に一人もいません。「人間という奇跡を生きる」手元に届いた月刊誌表紙に書かれてある言葉です。

1年が過ぎ去ろうとする師走の頃、文学的な確率で生まれ今を生きている奇跡に感謝しながら、人は幸せに生きる義務があるように感じました。



指宿市長
豊留悦男